

○計画期間：平成27年1月～平成32年3月（5年3か月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成29年度終了時点（平成30年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成27年1月に国の認定を受けた「石巻市中心市街地活性化基本計画」に基づき、目指す「まち」の姿「彩り豊かな食と歴史が薫る川辺のまち」の実現に向けて、震災で甚大な被害を受けた中心市街地を市民との協働によって各復興事業を展開し、震災前の賑わいを取り戻すため、都市機能の回復及び更なる活性化を目指している。

平成29年度には、かわまち交流拠点の整備が進み、交流人口増加に向けた目標指標としている生鮮マーケット「いしのまき元気いちば」が6月30日にオープンした。オープン時には近隣商店街と連携したスタンプラリーやイベントが実施され、賑わいをみせた。また、11月30日には同施設向かいに立体駐車場がオープンし、利用者数は徐々に増加してきている。平成30年度にオープンする「かわまち交流センター」や、堤防一帯空間の整備等、同エリアが徐々に整備されていくことで、「いしのまき元気いちば」の入場者数は更に増加するものと想定される。観光客の割合が高く、地元客の取り入れが今後の課題として考えられ、情報発信やイベントの仕掛けといったソフト面の充実が今後期待される。

平成29年度夏には現代アート、音楽、食の総合祭「Reborn-Art Festival 2017」が7月22日～9月10日の期間で開催された。中心市街地も開催エリアの1つに含まれており、開催中は徒歩で街なかを回る観光客で賑わった。「かんけい丸保存活用事業」として計画に掲載し、既に事業を完了した旧観慶丸商店は会期中インフォメーションセンター及びアート展示会場として利用され、多くの人を訪れた。また、中心市街地の多くの店舗が、アートパスポートを提示した利用者に対し割引等の特典を設ける「パートナーショップ」に加盟し、イベントの盛り上げに貢献した。

石巻駅前にある市役所本庁舎1階で営業していたスーパーが平成29年5月に撤退、閉店した。交通結節点である駅前の重要な施設であることから、新たな商業施設として整備するため、改修工事及び業者選定を進めているところである。中心市街地活性化に繋がる有意義な利活用をすることが今後の課題となっている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（中心市街地区域）	平成25年度 （計画期間開始前年度）	平成29年度 （フォローアップ年度）
人口	151,068人（9月末時点）	146,516人（9月末時点）
人口増減数	△1,182人（9月末時点）	△1,410人（9月末時点）
社会増減数	△354人（平成25年中）	△490人（平成29年中）
転入者数	4,441人（平成25年中）	3,871人（平成29年中）

2. 平成29年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

石巻商工会議所や街づくりまんぼう、市が事務局となり、市民・事業者で構成する中心市街地活性化協議会において、市街地再開発事業の事業内容や手法の変更、事業実施期間の変更等について、官民が密接な連携をしながら中心市街地の活性化の総合的かつ一体的な推進に関する協議を行うこととしている。

平成29年度は、平成30年1月の協議会総会において、中心市街地活性化基本計画の変更案（同年3月認定）について概要を説明し、中心市街地の活性化に向けた取組みの周知を図った。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
定住人口の増加	中心市街地における 定住人口	2,777人 (H25)	3,812人 (H31)	2,967人 (H30.3)	①	①
交流人口の増加	2施設の利用者数	241,208人 (H25)	1,241,200人 (H31)	391,831人 (H29)	①	①
交流人口の増加	歩行者・自転車通行量	15,002人 (H25)	16,950人 (H31)	13,612人 (H29.11)	①	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「中心市街地における定住人口」については、平成28年度比101人減少となっている。減少については、道路拡幅工事・旧北上川堤防工事による移転によるものと推測できる。行政区毎にみると、市街地再開発事業を実施した箇所では復興住宅、分譲住宅の整備によって増加傾向であるが、減少分をカバーしきれなかった。現在継続中の優良建築物等整備事業6地区のうち、3地区が計画期間内に完成予定であり、住宅等の整備が進められることで大幅な人口増加が見込まれる。

「2施設の利用者数」については、平成29年6月末に生鮮マーケット「いしのまき元気いちば」がオープンしたことにより、これまで萬画館1施設だった実績値に生鮮マーケットの来場者数が増えることで、より具体的な数値として現状を把握できるようになった。しかし、「いしのまき元気いちば」の数値はオープンした6月30日から12月末までのものであり、年間を通した数値ではない。また、指標である施設利用者数を測定するカウンターの設置が平成30年度になったため、今回はレジ通過者数の値を計測している。平成30年度には「いしのまき元気いちば」隣に「かわまち交流センター」がオープンすることにより、更なる利用者の増加が見込まれる。観光客向けに石ノ森萬画館と「いしのまき元気いちば」を含む街なか回遊スタンプラリーが平成29年度6月に実施されており、今後も継続して開催することで、街なかの賑わいにつなげていきたい。

「歩行者・自転車通行量」については、震災後平成25年度以降実施の中では最低値となった。調査地点毎に分析すると、駅周辺の通行量の減少が目立った。平成29年5月に石巻駅前の本庁舎1階で営業していた中心市街地唯一のスーパーが閉店したことが要因だと推測できる。スーパ

一には利便性の高い駐車場が無いため、利用者の多くが徒歩、自転車での来店であった。

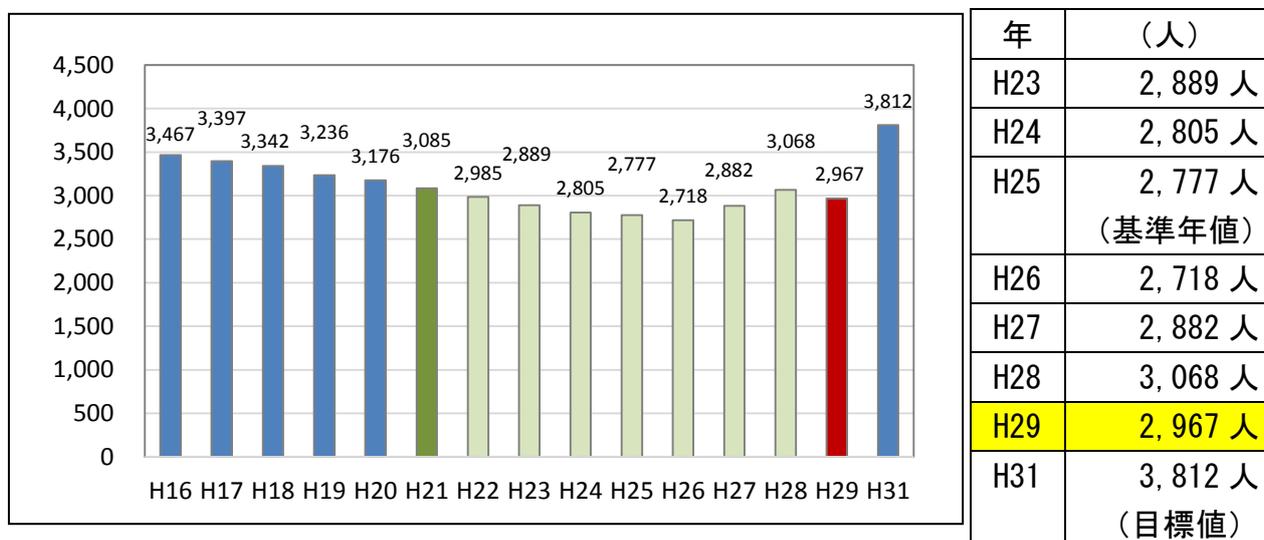
一方で、平成29年6月にオープンした「いしのまき元気いちば」周辺の通行量は増加傾向である。この増加した通行量を他の調査地点により強く波及させ、中心市街地全体の通行量増加に繋がられるよう、スタンプラリーや街歩きイベントなどを開催し、「いしのまき元気いちば」から徒歩で中心市街地を回遊させることで、目標値に近づきたい。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地における定住人口」※目標設定の考え方基本計画 P63～P66 参照

●調査結果の推移



※調査方法：住民基本台帳法

※調査月：毎年度3月末日

※調査主体：石巻市

※調査対象：中心市街地に居住する人数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 優良建築物等整備事業（民間事業者）

事業完了時期	平成25年度～【実施中】
事業概要	被災した建築物の建替え事業に補助を行うことにより、市街地環境の改善と防災力の向上を図り、災害に強いまちづくりと震災復興を推進する。
事業効果及び進捗状況	立町二丁目4番地区及び中央二丁目3番地区（A1地区）は平成30年4月に地盤調査、実施設計に着手している。中央二丁目3番地区（A2地区）及び中央二丁目4番北地区は平成32年4月竣工を目標に事業化に向けて検討中である。立町一丁目3番地区（B地区）は平成29年5月に交付決定がなされ、地盤調査、実施設計に向け準備中である。中央二丁目4番南地区は平成30年1月から建築工事に着手している。以上6地区のうち3地区が計画期間内に完成予定である。現在着

手している以上の6地区に加え、新規地区として2地区において事業化の検討が進められている。

②. 市街地再開発事業（民間事業者）

事業完了時期	平成24年度～【実施中】
事業概要	被災市街地において、商業施設や住宅等の複合施設を建設するとともに、屋外空間の一体整備を行う再開発事業者に対して補助金を交付し、再開発事業を支援する。
事業効果及び進捗状況	中央三丁目1番地区、立町二丁目5番地区、中央一丁目14・15番地区の3地区共に公営住宅及び民間分譲住宅（合計209戸）が整備済みである。 今後は、立町二丁目5番地区では平成30年7月に高齢者福祉施設が開業予定であり、中央一丁目14・15番地区では平成30年秋に離島航路施設が開業予定となっている。

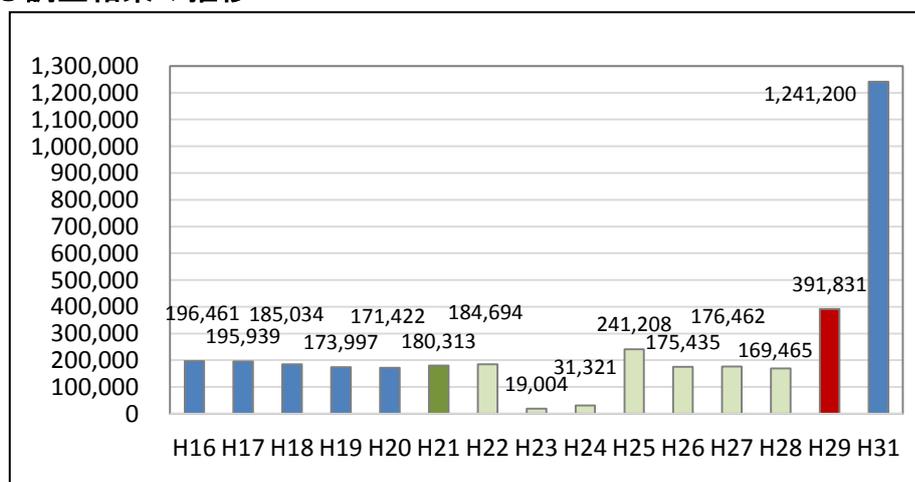
●目標達成の見通し及び今後の対策

道路拡幅工事・旧北上川堤防工事による移転等により中心市街地における定住人口は前年比101人減となっているが、市街地再開発事業を実施した箇所では増加傾向にあるうえ、優良建築物等整備事業については現在実施中の6地区の他に2地区において事業化の検討が進められており、中心市街地における新たな賑わいの創出や、更なる定住人口の増加が見込まれる。

今後、年度毎に事業の進捗状況等を調査し、状況に応じた改善措置を講じていく必要がある。平成29年度の進捗は、おおむね計画通りに進捗しているが、当初の予定より遅延している事業もある。改善策としては、民間事業であるため補助事業の適切な執行管理や事業者に対する助言等の手法により進めていく。また、事業スケジュールを考慮しつつも、地権者の私的財産や生活に配慮した着実な進捗を図る必要がある。

「2施設の利用者数」 ※目標設定の考え方基本計画 P67～P69 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H23	19,004人
H24	31,321人
H25	241,208人 (基準年値)
H26	175,435人
H27	176,462人
H28	169,465人
H29	391,831人
H31	1,241,200人 (目標値)

※調査方法：施設の利用者数の集計

※調査月：毎年度12月末

※調査主体：石巻市

※調査対象：石ノ森萬画館入場者数、観光交流施設利用者数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 石ノ森萬画館実施事業（石巻市）

事業完了時期	平成13年度～【実施中】
事業概要	石ノ森萬画館にて、「マンガの街いしのまき」を体感してもらうきっかけづくりとして各種事業を開催する。
事業効果及び進捗状況	萬画館来場者数は179,546人となり、平成31年度目標の241,200人には遠い数字であるが、前年比約1万人増となっており、順調に増加していると言える。リボンアートによる石巻観光客増や企画展の「サイコパス原画展」や名探偵コナン原画展の人気による効果であると考えられる。

②. かわまち交流拠点（生鮮マーケット等）整備事業（石巻市）

事業完了時期	平成25年度～平成32年度【実施中】
事業概要	街なかの賑わい創出を図るため、川と一体的なまちづくりとして、生鮮マーケット・公共施設・交通広場等で構成される観光交流拠点を土地区画整理事業等により整備する。
事業効果及び進捗状況	平成29年6月末に生鮮マーケット「いしのまき元気いちば」がオープンした。オープニングイベントとして、街なかを回遊するクイズラリーを開催し、水産都市石巻をPRしつつ、街なかの賑わいに貢献した。6月末から12月末までのレジ通過者数は212,285人であった。平成30年6月には交通広場の完成、同年8月には「かわまち交流センター」の完成を控えており、更なる利用者数の増加が見込まれる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

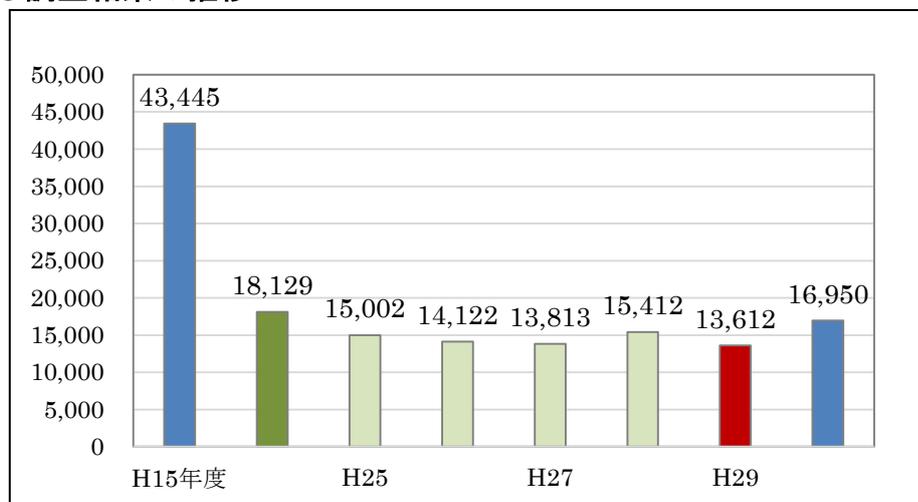
平成29年6月末に「いしのまき元気いちば」がオープンし、石ノ森萬画館入場者数に加えて当該観光交流施設利用者数を加算できるようになった。施設の利用者数の最新値は基準値を大きく下回っているが、これは「いしのまき元気いちば」の利用者数の値がオープンした6月30日から12月末までのもので年間を通した数値ではないことや、指標である施設利用者数を測定するカウンターの設置が平成30年度になったため今回はレジ通過者数の値を加えているためである。平成30年度にはレジ通過者数ではなく施設利用者数が計測できるうえ、「かわまち交流センター」や交通広場等の周辺施設の整備による相乗効果により、更なる利用者数の増加が見込まれる。なお、レジ通過者数「212,285人」に「2（レジ通過者数の同行者数を求める係数として）」と「12/5（1年分の値に修正）」を乗ずると、「1,018,968人」となり、推計値ではあるが目標値に非常に近い値を示している。

各施設の利用者数及び、事業の進捗状況については、毎年度確認をするとともに検証を行い、目標値達成に向けた改善策を講じていく必要がある。改善策としては、石巻市の第三セクターであるTMO「株式会社街づくりまんぼう」と協力したイベントの開催や魅力発信など、より利用

者数の増加が見込める対策を講じていく必要がある。

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P67～P69 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H15	43,445 人
H20	18,129 人
H25	15,002 人 (基準年値)
H26	14,122 人
H27	13,813 人
H28	15,412 人
H29	13,612 人
H31	16,950 人 (目標値)

※調査方法：石巻市中心市街地通行量調査

※調査月：平成15年10～11月、平成20年5月、平成25年11月、平成27年3月、平成27年11月、平成28年5月、平成29年11月

※調査主体：石巻市

※調査対象：平日、休日における歩行者と自転車通行量の合算値

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. かわまち交流拠点（生鮮マーケット等）整備事業（石巻市）

事業完了時期	平成25年度～平成32年度【実施中】
事業概要	街なかの賑わい創出を図るため、川と一体的なまちづくりとして、生鮮マーケット・公共施設・交通広場等で構成される観光交流拠点を土地区画整理事業等により整備する。
事業効果及び進捗状況	生鮮マーケットの完成によって、市民、観光客問わず全体の生活・買い物利便性の向上が期待されることから、生鮮マーケットを訪れる方の歩行者・自転車通行量の目標値を2,684人に定めている。 平成29年6月末に生鮮マーケット「いしのまき元気いちば」オープンし、当施設から最も近い調査地点では平日休日合計値が昨年の704人に対し1,485人とほぼ倍になっている。調査後11月末にかわまち立体駐車場が供用開始し、平成30年9月には公共施設「かわまち交流センター」がオープンを予定していることから、より一層通行量の増加が見込まれる。かわまちにおける歩行者・自転車通行量の増加を中心市街地全体に波及させるような仕組みを検討する必要がある。

②. 石巻市子どもセンター事業（石巻市）

事業完了時期	平成25年度～【実施中】
事業概要	子どもセンターにおいて、小中高生が中心となり中心市街地活性化に係る商店街との連携企画を実施し、一体となったソフト事業を展開する。
事業効果及び進捗状況	<p>当施設において、商店事業者と子ども達で企画したイベントを通して商店街の賑わいづくりを行うことにより、歩行者・自転車通行量の増加が見込まれることから、目標値を112人に定めている。</p> <p>平成29年度の入場者数は26,917人、1日平均85人であり、通行量に相当程度貢献していると推測される。</p> <p>平成29年度で4回目となるハロウィン祭りが商店街協力のもと開催され、約800人の子どもたちが協力店舗を巡ってお菓子を集めた。</p> <p>その他、子ども向けイベントや親子で参加できるワークショップを随時開催している。子育てサークルの活動もしており、保護者にとっての交流の場としても利用されている。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

歩行者・自転車通行量は昨年比1,800人減の13,612人となり、震災後平成25年度以降実施の中では最低値となった。石巻駅前で営業していた中心市街地唯一のスーパーの閉店に伴う駅周辺の通行量の減少が要因であるが、平成29年6月末にオープンした「いしのまき元気いちば」周辺の交通量は増加傾向にあり、平成30年度は「かわまち交流センター」や交通広場等の周辺施設の整備による相乗効果によって更なる通行量の増加が見込まれる。

各施設等のオープンに合わせた合同イベントの開催等により、より多くの通行量を望むと共に、中心市街地全体へ通行量の増加を波及させるよう検討していく。